



今年の上期は新型コロナウイルスの影響で予定していた練習ができない中、限られたレースへの出場となりました。その中で新人の山瀬大成選手が自己ベストを更新したことは収穫でした。

その後、チームは駅伝に向け大分県九重町で夏合宿に入りました。起伏があるコースでそれぞれの弱みを克服すべく、各自が目的を持って走り込みを行いました。

9月からはトラックレースが始まり、全日本実業団対抗陸上競技選手権大会、中国実業団長距離記録会へ出場しましたが、他チームに比べ厳しい結果が続いております。11月3日に開催された九州実業団毎日駅伝大会では6位となり、31年連続・43回目のニューイヤー駅伝出場を決めました。本番に向け、チーム一丸となって状態を引き上げていけるように精進してまいりますので、引き続きご声援よろしくお願いたします。



大分県九重町での夏合宿の様子
 写真左から 高橋尚弥選手、山瀬大成選手、加藤風磨選手、山口晟弥選手、中川翔太選手、大畑和真選手、古賀淳紫選手



大分県九重町での夏合宿の様子

選手コメント



高橋 尚弥 (副キャプテン)

上期はほぼ全てのレースが中止になりました。そんなコロナ禍の中で始まった夏合宿でしたが、たくさんの方に支えられて例年通り行うことができました。

今年のチームの特徴を一言で表すと「若返りと改革」です。選手のほとんどが20代前半となり選手層はフレッシュなチームになりました。今までは走り込みメインだった夏合宿も、効率の良い走りができるように動き作りを取り入れました。スタッフとの連携も強化し、各々の選手が自分の意見を伝えることで積極的に新しいことに挑戦しています。

まだ改革途中で伸び悩む選手も多いですが、目標は「ニューイヤー駅伝入賞」です。1人1人が安川電機陸上部の新しい歴史を作っていく覚悟を持って駅伝シーズンを戦っていきたいと思います。



高橋尚弥選手 (左端、全日本実業団対抗陸上競技選手権大会)



古賀淳紫選手 (左から2番目、全日本実業団対抗陸上競技選手権大会)